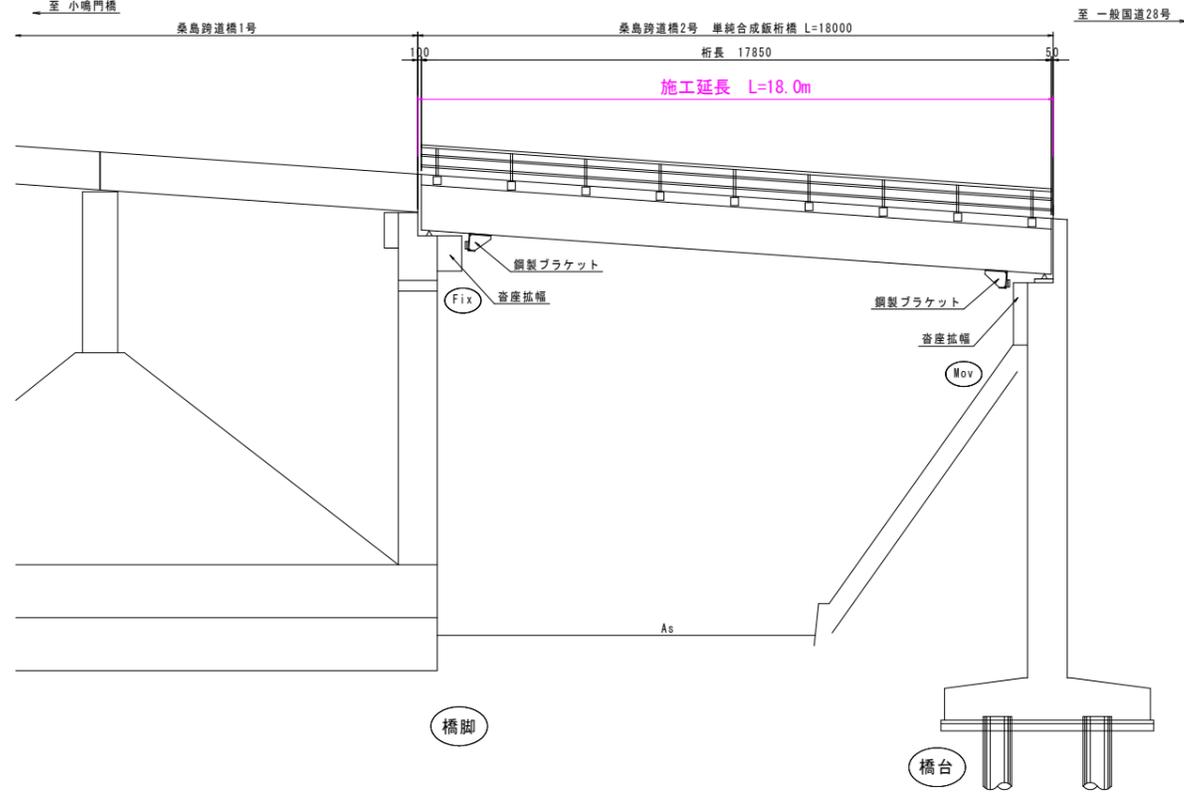
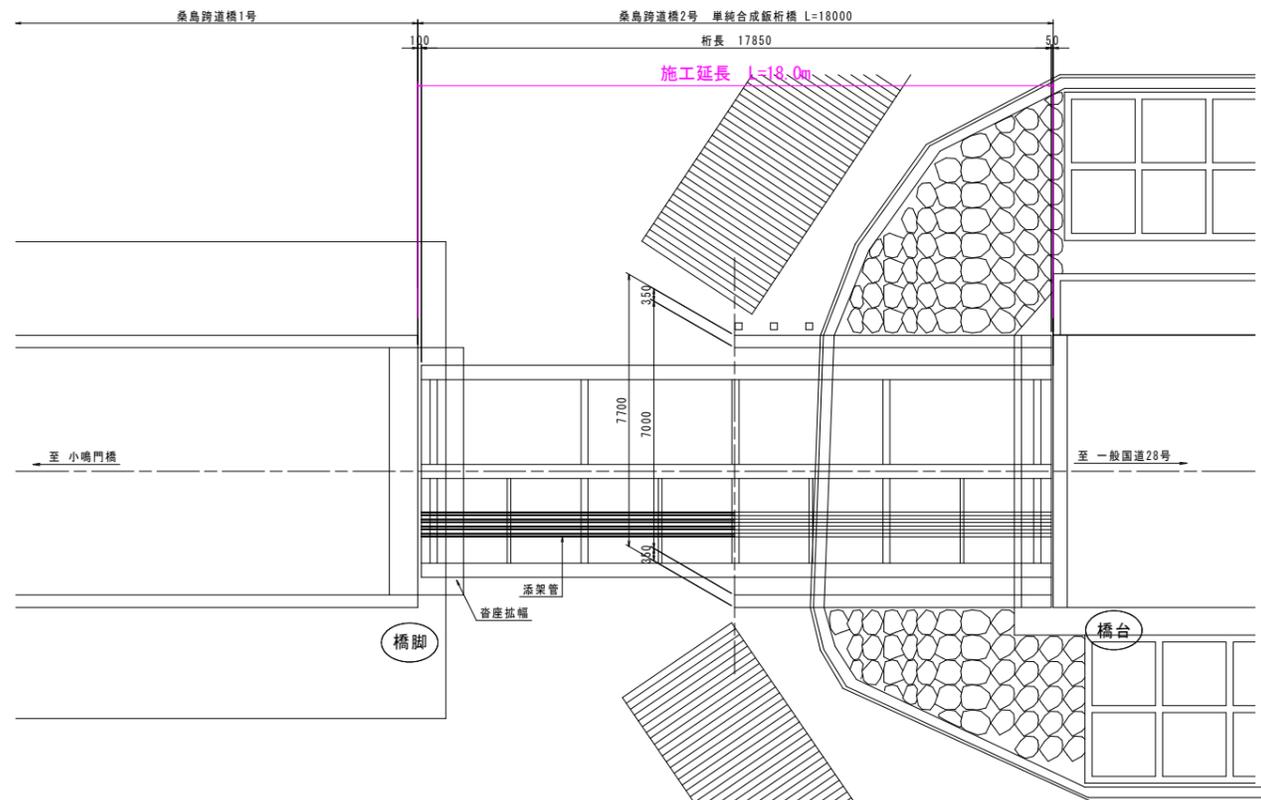


橋梁一般図

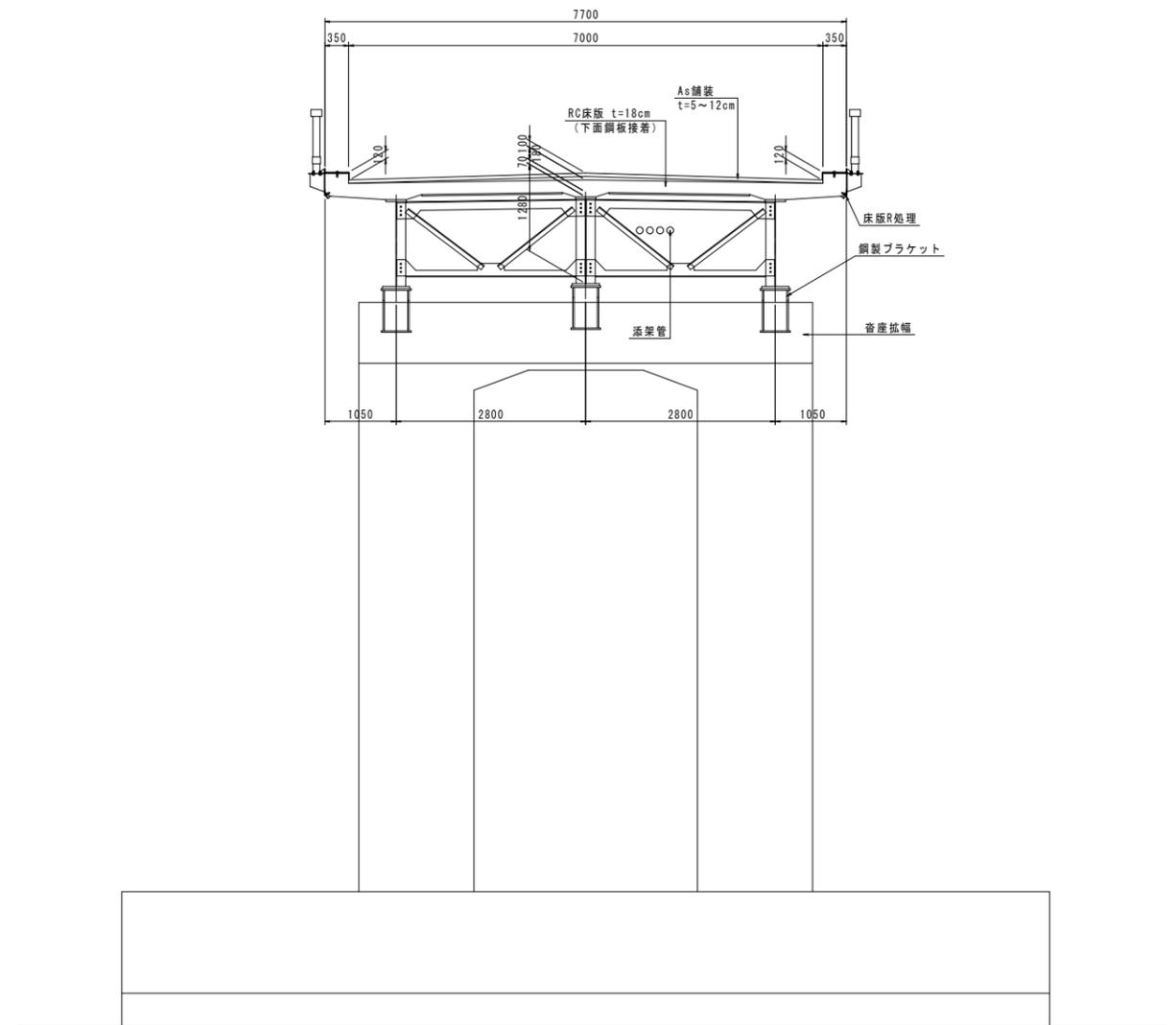
側面図 S=1:100



平面図 S=1:100



断面図 S=1:50



設計条件 (定期点検結果より)

橋梁名	桑島跨道橋2号
路線名	鳴門公園線
所在地	鳴門市撫美町桑島
供用開始日	1961年1月
等級	一等橋
橋長	18m
上部工形式	鋼溶接橋 1桁 (合成)
下部工形式	橋台 逆T式橋台
	橋脚 ラーメン橋脚 (RC)
幅員構成	0.35+2x3.50+0.35=7.70m
適用示方書	S30建示

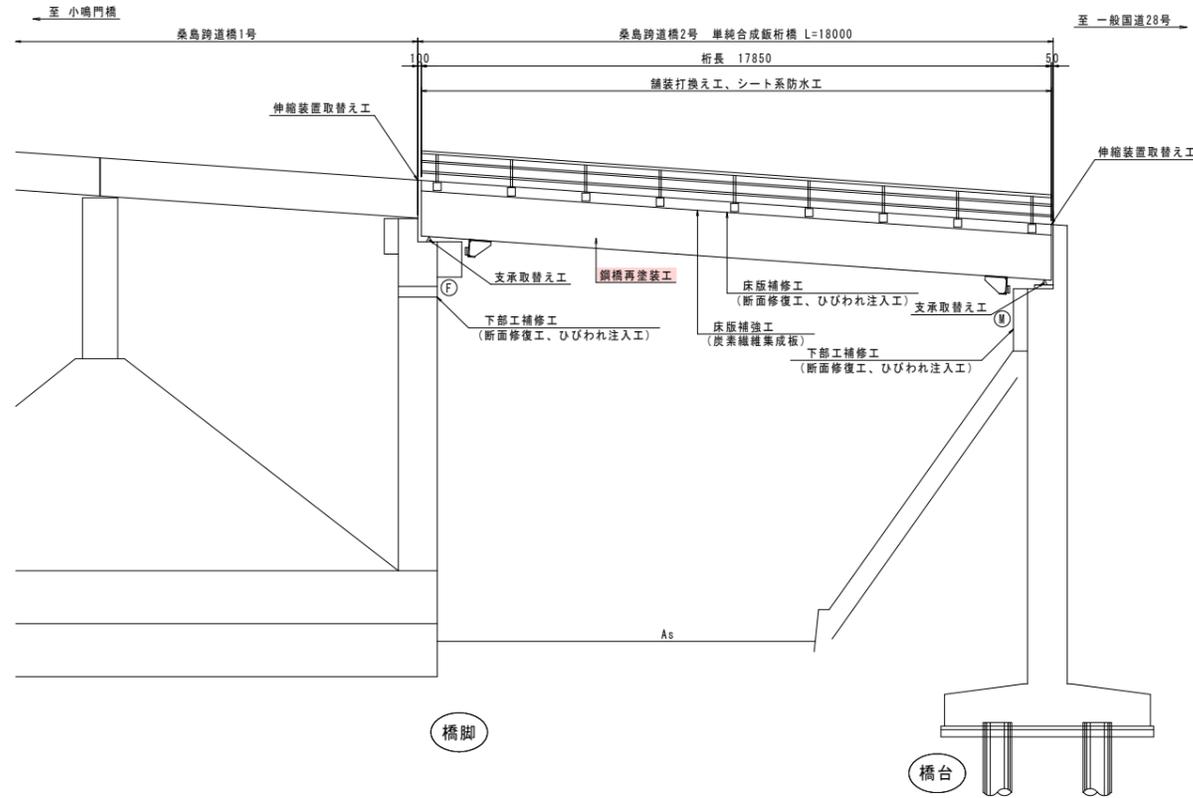
実施設計図面 (桑島跨道2号橋)

工事名	R2徳土 鳴門公園線 鳴・撫美大桑島 橋梁塗装工事
路線名等	鳴門公園線
工事箇所	鳴門市撫美町大桑島 (桑島跨道2号橋)
図面名	橋梁一般図
縮尺	図示 図面番号 1/3
会社名	
事業者名	徳島県東部環土整備局 (徳島庁舎)

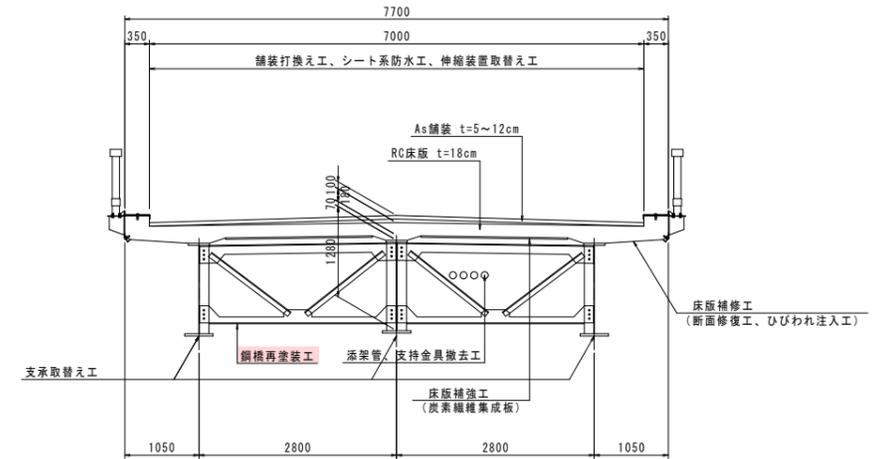
※本図の地形線および下部・基礎工形状は定期点検結果等を基に作図している。

補修工一般図

側面図 S=1:100



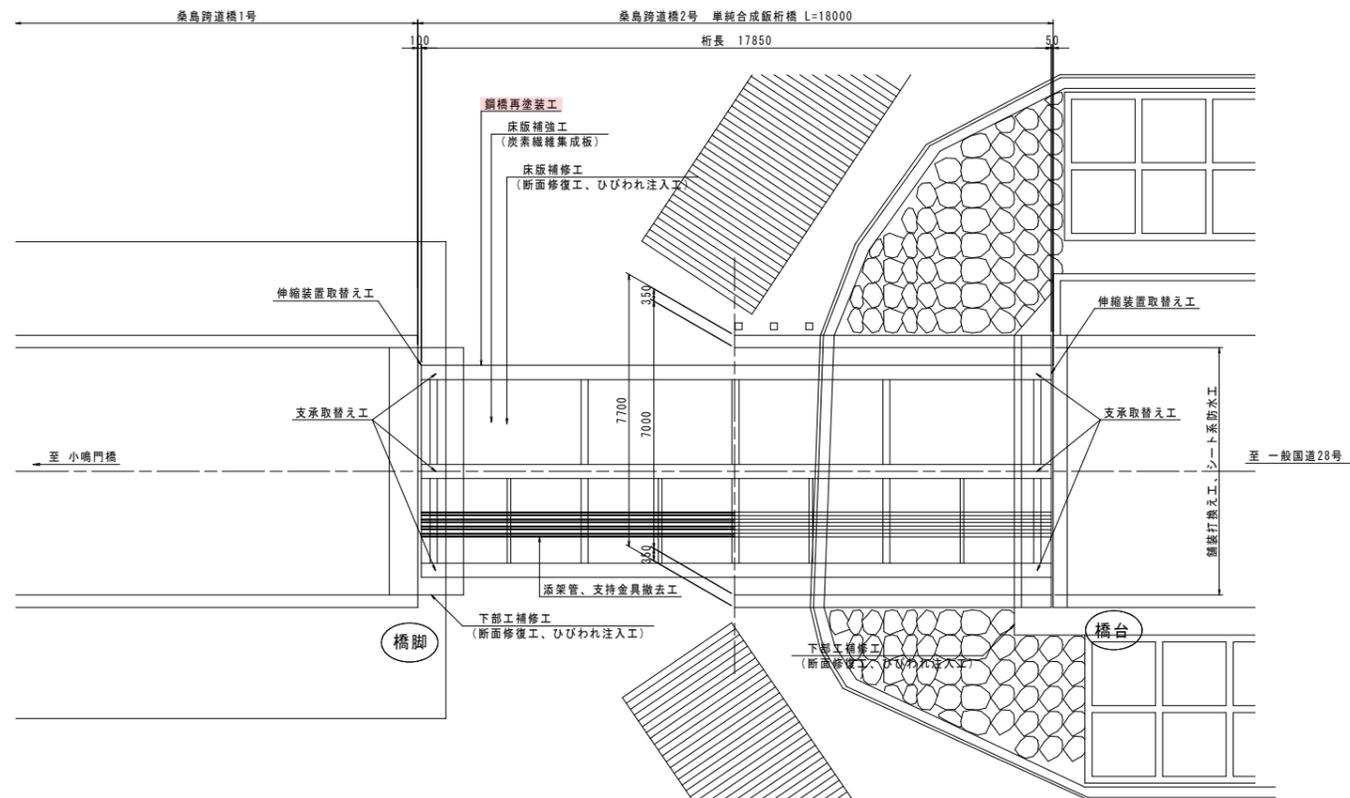
断面図 S=1:50



補修工一覧表

舗装打換え工	アスファルト舗装、t=10cm
床板防水工	シート系防水工
伸縮装置取替え工	突合せ型鋼製ジョイント
支取替え工	タイプBゴム支承
鋼橋再塗装工	Rc-III塗装系
床板補修工	断面修復工、ひびわれ注工
床板補強工	炭素繊維集成板工法
下部工補修工	断面修復工、ひびわれ注工

平面図 S=1:100



実施設計図面 (桑島跨道2号橋)

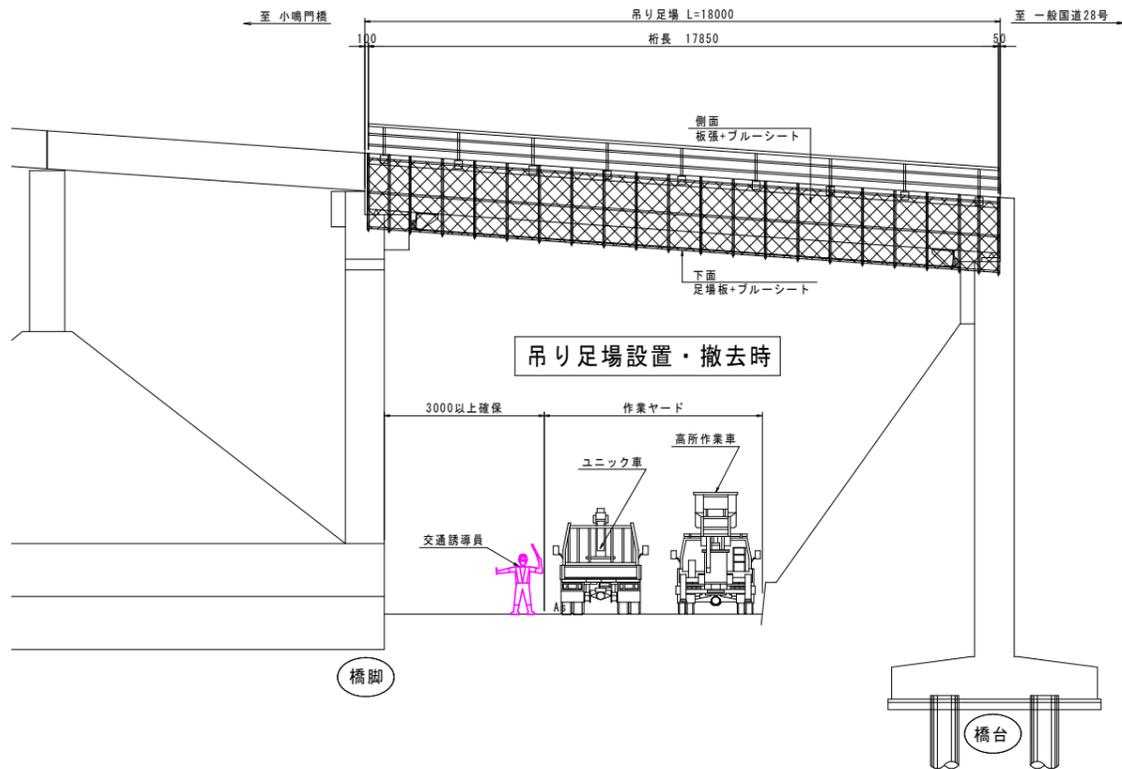
工事名	R2徳土 鳴門公園線 鳴・養大桑島橋梁塗装工事		
路線名等	鳴門公園線		
工事箇所	鳴門市撫美町大桑島 (桑島跨道2号橋)		
図面名	補修工一般図		
縮尺	図示	図面番号	2/3
会社名			
事業者名	徳島県東部県土整備局 (徳島庁舎)		

※本図の地形線および下部・基礎工形状は定期点検結果等を基に作図している。

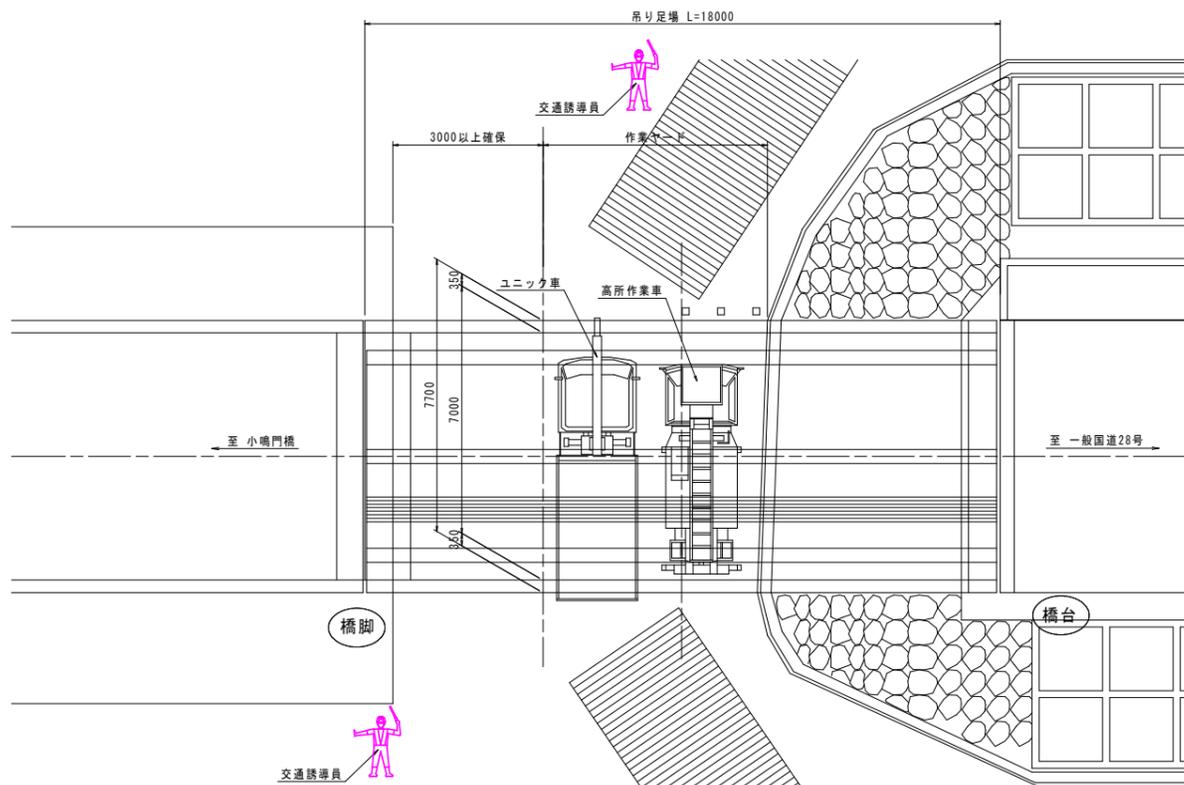
施工計画図

(鋼橋再塗装工、床版補修・補強工)

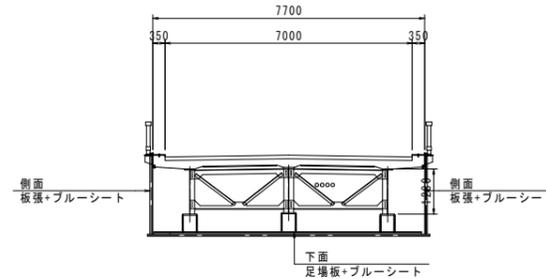
側面図 S=1:100



平面図 S=1:100

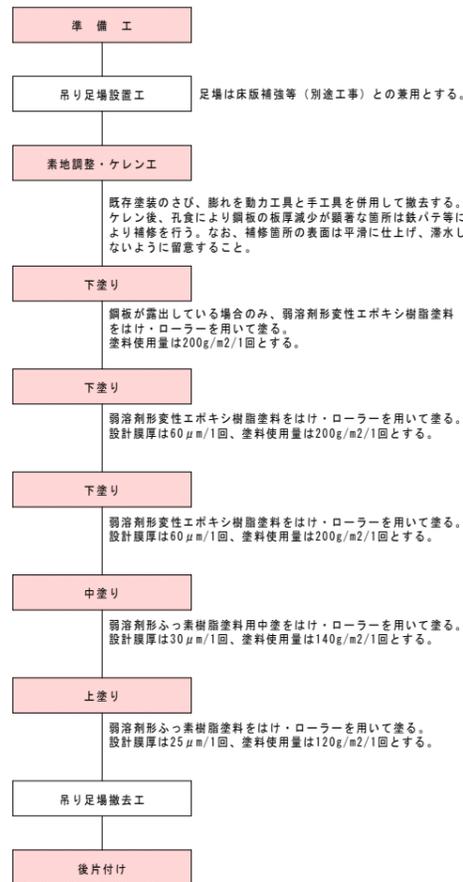


断面図 S=1:100

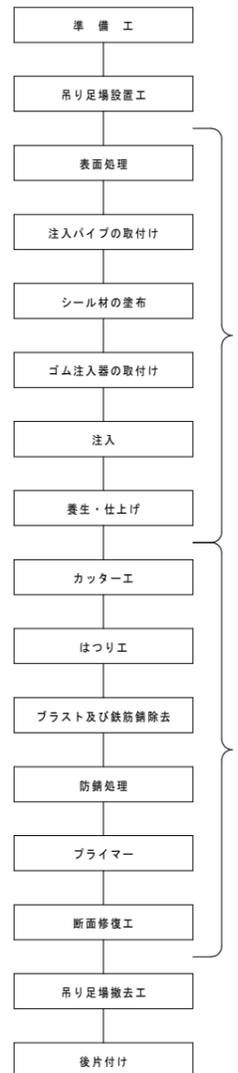


※足場工は再塗装工と兼用することを想定している。
※防塵工については、施工時に発注者および関係機関との協議を行い形式を決定すること。

(鋼橋再塗装工) 作業フロー



(床版補修工) 作業フロー



(床版補強工) 作業フロー



ひびわれ注入工

断面修復工

(鋼橋再塗装工) 作業要領

- 素地調整・ケレン工
既存塗装のさび、膨れを動力工具と手工具を併用して撤去する。ケレン後、孔食により鋼板の板厚減少が顕著な箇所は鉄バテ等により補修を行う。なお、補修箇所の表面は平滑に仕上げ、滞水しないように留意すること。
- 下塗り(1回)
鋼板が露出している場合のみ、弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料をはけ・ローラーを用いて塗る。
塗料使用量は200g/m²/1回とする。
- 下塗り(2回)
弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料をはけ・ローラーを用いて塗る。
設計膜厚は60μm/1回、塗料使用量は200g/m²/1回とする。
- 中塗り
弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗をはけ・ローラーを用いて塗る。
設計膜厚は30μm/1回、塗料使用量は140g/m²/1回とする。
- 上塗り
弱溶剤形ふっ素樹脂塗料をはけ・ローラーを用いて塗る。
設計膜厚は25μm/1回、塗料使用量は120g/m²/1回とする。

※作業時の注意事項
塗修作業で使用する工具及び作業時に発生するケレンダスト、塗料については、足場全面にシート張、板張を設置することにより、落下、飛散を防ぐこととする。

Rc-III塗装系 (はけ・ローラー)

塗装工程	塗料名	使用量 (g/m ²)
素地調整	3種ケレン	
下塗り	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (鋼板露出部のみ)	200
下塗り	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	200
下塗り	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	200
中塗り	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	140
上塗り	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	120

(床版補修工) 作業要領

- ひびわれ注入工
1) 表面処理
ひびわれに沿ってワイヤブラシ等で汚れやほりを除去する。
2) 注入パイプ取付け
注入パイプをシール材を用いてひびわれの上に接着固定させる。
パイプ間隔は30~50cmとする。
3) シール材の塗布
シール材をひびわれに沿って塗布する。
4) ゴム注入器の取付け
シール材が硬化した後、注入パイプにゴム注入器をセットする。
5) 注入
ゴム注入器に注入材を入れてゴムを膨らませる。注入量により膨らませる大きさを加減する。
6) 養生・仕上げ
注入材が硬化するまで養生する。注入材が硬化後、パイプのシール材をハンマー、ディスクサンダー等で除去する。
- 断面修復工
1) カッター工
鉄筋露出部、うきや剝離発生箇所を対象に、カッターで1cm程度の切り込みを入れる。
2) はつり工
電動ハットハンマ等を用いてはつり作業を行う。はつり作業は、健全なコンクリートへの悪影響を避けるため慎重に行い、整形後、うきのない事を確認する。断面修復材との付着性に配慮して、はつり範囲は最小限とする。
はつり量は概ね30mmを目安とし、その範囲内に鉄筋がある場合は、素地調整の作業空間を考慮して鉄筋の裏側15mm程度まではつる事とする。
3) プラスト及び鉄筋除去
素地調整にはプラスト機、ワイヤブラシ、サンドペーパーにてケレン作業を実施する。
裏面状況のチェックには歯科用ミラー等を用いて確認する。
4) 防錆処理
鉄筋には防錆材を塗布する。
5) プライマー
プライマーを塗布する。
6) 断面修復工
ポリマーセメントモルタル等を用いて断面修復を行う。

(床版補強工) 作業要領

- 下地処理
プラストやディスクサンダー掛け(2種ケレン)により、脆弱コンクリート、ごみ、汚れなどを幅100mmで除去し、必要に応じてひびわれの修復を行う。仕上げ材の除去に伴う凹凸や既存コンクリートの不陸は断面修復材等で補修し、鉄筋の露出部は防錆処理を施す。
(2) 炭素繊維集成板の切断
炭素繊維集成板を、ディスクサンダー、ダイヤモンドディスクカッター等によって指定された寸法に切断する。この際乾式で切断すると炭素繊維と樹脂の微粉末が飛散するので、防塵マスク、防護メガネ、革手袋等を着用するとともに、工事用掃除機などで微粉末を吸引しながら切断する等の措置が必要である。
(3) プライマー塗布
コンクリート表面の劣化が激しく十分な接着効果が期待できない場合は、下地処理面にプライマーを塗布する。
(4) 接着剤の混合
用いる接着剤を空気が混入しないように注意しながら攪拌混合する。
(5) 接着剤の塗布
下地処理面又はプライマーを塗布したコンクリート表面に、ヘラ、コテを用い、接着剤を厚さ1~2mmとなるように塗布する。
(6) 炭素繊維集成板の貼付け
予め差出したコンクリート表面の所定の位置に炭素繊維集成板を設置し、コンクリートと炭素繊維集成板との間に空隙を作らないうろろラー等で押さえる。特に重ね部や端部は空隙が生じ易いので十分押さえ込む。
(7) 養生
養生にあたっては、過度の振動、衝撃、水分などを与えないように注意しなければならない。なお気温が低いと接着強度に十分な発現が期待できないので、5℃以下では原則として施工を行わない。

実施設計図面 (桑島跨道2号橋)

工事名	R2徳土 鳴門公園線 鳴・撫養大桑島橋梁塗装工事		
路線名等	鳴門公園線		
工事箇所	鳴門市撫養町大桑島 (桑島跨道2号橋)		
図面名	施工計画図		
縮尺	図示	図面番号	3/3
会社名			
事業者名	徳島県東部県土整備局 (徳島庁舎)		

※本図の地形線および下部・基礎工形状は定期点検結果等を基に作図している。